

徳島大学創立 60 周年記念事業

徳島大学における倫理委員会設置および体外受精開始

25 周年記念講演会

プログラム

日時：平成 21 年 10 月 10 日（土） 13：00～17：00

場所：日亜メディカルホール（徳島大学病院西病棟 11 階）

共催 徳島大学病院臨床試験管理センター
徳島大学病院産科婦人科

企画者からのご挨拶

1982年に徳島大学医学部に全国初の倫理委員会が開設され、初めての検討課題として体外受精胚移植の臨床応用が審議されました。その過程を経て、翌年の1983年に、本邦3例目の体外受精胚移植によるいわゆる「試験管ベビー」が徳島大学病院産科婦人科で誕生しました。

それから4半世紀、すなわち25年の時が過ぎ、日本全国のヒトを対象とする研究施設にはあまねく倫理委員会ができ、その審議内容も多岐にわたるようになりました。一方、体外受精胚移植により年間約1万人近くの新生児が生まれるようになり、不妊治療の有力な手段として一般化したと思えます。徳島大学が先鞭をつけたこれらの出来事が、25年を過ぎて日本の津々浦々で当然のこととして行われるようになったわけで、我々の先輩が努力したことが大きく開花したと喜んでおります。我々の大学でその後の医学研究に大きな意味をもたらした出来事が起こり、革命的な医療技術が出発したことに誇りをもちたいと思います。

さて、この25年はまさに日本における倫理委員会と体外受精胚移植技術の発展と普遍化の25年と言えます。しかし、この25年間の学問の進歩は著しく、また社会通念の変化も日々新たであり、黎明期の記憶は薄れ、徳島大学に日本で始めて倫理委員会ができた経緯や、全国の大学病院が体外受精の成功を良い意味で競い合った時代を知るものは少なくなりました。特に、徳島大学の学生や職員で全くこの事実を知らない者も多くなりました。

しかし、学問の進歩は先人の努力の上に築かれるものと考えます。これから徳島大学で臨床研究に携わる研究者には、先人の努力を知る義務があり、また徳島大学で巣立つ医療人には、この事実を誇りとして持っていただきたく思います。

そこで、25周年という区切りの時期に、また徳島大学が60周年を迎えたこの時期に、もう一度原点を見つめ直すとともに、将来の倫理委員会のあり方、生殖補助医療の進む道を考えたいと思い、この講演会を企画いたしました。多数の皆様にご参加頂きますよう、お願い申し上げます。

徳島大学病院臨床試験管理センター長・
徳島大学大学院産科婦人科学教授 苛原 稔

プログラム

開会の挨拶：香川 征（徳島大学病院長）（13：00～13：05）

I. 基調講演（13：05～13：55）

座長：青野敏博（徳島大学長）

演者：森 崇英（元徳島大学教授、京都大学名誉教授、日本生殖再生医学会理事長）

「本邦初の医学倫理委員会

—徳島大学・体外受精プログラムの果たした役割と意義—」

II. 第1部 倫理委員会 25周年（14：00～15：40）

座長：佐野壽昭（徳島大学大学院人体病理学分野 教授、

ヘルスバイオサイエンス研究部倫理委員会委員長）

演者：楊河宏章（徳島大学病院 病院教授、臨床試験管理センター副センター長）

「徳島大学における倫理審査の現状 （25分）」

演者：曾根三郎（徳島大学大学院呼吸器・膠原病内科学分野 教授）

「臨床研究における利益相反マネジメント （35分）」

演者：笹栗俊之（九州大学大学院医学研究院臨床薬理学分野 教授）

「研究倫理委員会のあり方について （40分）」

III. 第2部：体外受精 25周年（15：50～17：00）

座長：香川 征（徳島大学病院長）

演者：苛原 稔（徳島大学大学院産科婦人科学分野教授、

臨床試験管理センターセンター長）

「徳島大学病院における生殖医療の発展と将来 （30分）」

演者：星 和彦（山梨大学理事、副学長）

「体外受精、30年の風景 （40分）」

閉会の挨拶：苛原 稔（徳島大学大学院産科婦人科学分野 教授）